

委員長コメント
(平成22(2010)年エイズ発生動向の概要について)

【平成22年 年間報告(確定値)】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成22年1月1日から平成22年12月31日までの1年
2. 新規HIV感染者は1,075件で過去3位
3. 新規AIDS患者は469件で過去最多
4. 合計は1,544件で過去2位(一日あたり約4.2件の新規報告)
※これまでの最高は、平成20年(確定値) HIV感染者1,126件、AIDS患者431件、合計1,557件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが744件(全HIV感染者報告数の約69%)と多数を占める
 - 異性間性的接触によるものが195件(全HIV感染者報告数の約18%)
 - 母子感染によるものが3件
 - 年齢別では、特に20～30代に多い
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが230件(全AIDS患者報告数の約49%)と多数を占める
 - 異性間性的接触によるものが127件(全AIDS患者報告数の約27%)
 - 年齢別では、30歳以上に多い

【報告地別の概況】

1. 新規HIV感染者：
 - 東京都を含む関東・甲信越ブロック及び近畿ブロックの報告が多数を占める(74%)
 - 東海ブロック、近畿ブロックが増加
2. 新規AIDS患者：
 - 東京都を含む関東・甲信越ブロック及び近畿ブロックからの報告が多数を占める(62%)
 - 東海ブロック、中国・四国ブロックが増加

【まとめ】

1. 平成22(2010)年における新規HIV感染者報告数は過去3位、新規AIDS患者報告数は過去最多であった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者の報告は日本国籍男性で、同性間性的接触を感染経路とするものが引き続き、多数を占めている。特に、日本国籍男性の新規AIDS患者報告数の増加が著しい。
3. 新規HIV感染者の増加は地方への拡がりを見せている。平成22年には東海ブロック及び中国・四国ブロックにおける新規AIDS患者の増加が顕著であった。
4. HIV感染者において、40代以上が増加し、年代の拡がりが見られる。
5. 保健所等でのHIV抗体検査・相談件数は減少した。各自治体においては、エイズ予防指針を踏まえ、個別施策層(特に男性同性愛者)を中心に、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要である。また、HIV感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。

6. 国民はH I V・エイズについての理解を深めていただきたい。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、無料・匿名で自治体等で実施されているH I V抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。

なお、平成 22 (2010) 年エイズ発生動向年報の詳細については、7 月下旬に年報を公表予定である。